

「日本をリセット」総選挙へ!

なく、総理大臣にふさわしい器ではない」(前出・天木

氏)

これまで反主流派のホープだった小泉進次郎氏も

「内閣改造・党人事で筆頭副幹事長に抜擢され、いまや、選挙の顔」として安倍

首相に巧妙に取り込まれています。政権批判の牙を奪われてしまった」(野上氏)のである。

PART4 国会質問ゼロで歳費4200万円丸儲け「仕事はしません」税金ドロボー議員たち

小淵優子、安住淳、小此木八郎、武田良太、伊藤達也、桜田義孝、山口泰明、赤松広隆、中村喜四郎



国会議員は「採決要員」ではない。法案採決の際に党の指示通りに賛成票や反対票を投じるだけなら、議員はいらないのだ。

*

与党議員も野党議員も、法案をつくり、国会で質問して政策をチェックするのが国民の代表としての役割である。たとえ質問機会が与えられにくい無所属であっても、内閣に質問主意書を出すことで質問権が保障されている。

ところが、NPO法人「万

元経産相だ。政治資金収支報告書にない後援会の観劇ツアー疑惑で経産大臣を辞任(14年10月)後、東京地検特捜部の強制捜査を受け、会計責任者2人が有罪判決

受けた。小淵氏自身は同年12月の総選挙で当選したものの、その後の3年間の議員活動実績はオールゼロだ。

無所属議員にはもっとワモノがいる。当選13回の中村喜四郎氏は「万野党」が調査を開始した12年12月の第182国会以来、国会質問、議員立法、質問主意書を一度も出したことがないのだ。いったい、何のために国会議員を続けているのか……。

政治ジャーナリストが言う。「国会議員には歳費の他に非課税の文書交通通信滞在費、新幹線乗り放題の無料バスや東京と選挙区間の航空券、格安の議員宿舎など1人あたりぎつと42000

その代表格が小淵優子・元経産相だ。政治資金収支報告書にない後援会の観劇ツアー疑惑で経産大臣を辞任(14年10月)後、東京地検特捜部の強制捜査を受け、会計責任者2人が有罪判決

野党議員は与党に比べてはるかに質問機会が多い。それにもかかわらず、「安倍首相が最も嫌がる質問者」と呼ばれた民進党の安住淳氏、赤松広隆氏がゼロ

内閣改造で初入閣した小此木八郎・防災相も同じくゼロ。議員としての能力や実績で大臣に選ばれたわけではないことがわかる(自民党では他に、伊藤達也氏、山口泰明氏、桜田義孝氏、武田良太氏など)。

波及効果でいえば、最も有効なツールとなるのはツイッターなどのSNSだ。電子メールは、選挙期間に入ると党・候補者以外の個人が特定候補への、投票を促す。ことは禁止されるが、落選を促す。メールであれば可能である。

「選挙期間中にインターネット上で落選運動をする場合、送信者の氏名・名称、メールアドレスなどの連絡先を表示しなければなりません。ツイッターなどは実名ではなくハンドルネームでも可です。インターネットが苦手な高齢者の方々は病院や老人ホームといった地域の人が集まるコミュニティで、クチコミで落選運動を展開していくのも有効です」(上脇氏)

野党と同じく有権者も共闘。することで、NOを突きつけることができる。

『週刊ポスト』次号(10月27日号)は10月16日(月)発売です 一部地域で発売日
が異なります

万円もの税金が与えられる。国会で仕事をしない議員はど、暇があるから地元の祭りや運動会にせっせと顔を出し、選挙に強かったりし

ます。しかし、そうした地元活動はいわば次の選挙で議員バッジをつけるための政治家は必要ありません

ついて「最後は金目でしょ」など被災者の感情を逆なでする発言を連発した。塩崎恭久・前厚労相は、「受動喫煙防止法案を成立させる」と大見得を切って党内の反対でつぶされるというひ弱さを露呈した。

PART5 七光りで落選知らず&スピード出世 国を滅ぼす「名門」家の世襲議員

麻生太郎、石原伸晃、塩崎恭久、石原宏高、逢沢一郎、橋本岳、鈴木俊一、竹下亘、中山泰秀、川崎二郎、平井卓也、森英介



親から地盤(後援会、看板(知名度)、

8月に発足した「仕事人内閣」の大臣のうち、初入閣の6人中4人が世襲大臣だ。これで安倍内閣の世襲議員は安倍首相、麻生太郎、副総理兼財務相を含めて20人中13人を占める。

カバン(政治資金の集金力)を引き継ぐことができる世襲議員は選挙に強く、親の七光りで出世が早い。その代わり、「家業」として議員を引き継いでいるから、庶民の暮らしをしたり、自分でゼロから有権者と向き合って選挙地盤をつくったことがない。麻生さんは初出馬のとき、選挙カーに乗って、下々の皆さん、私が吉田茂の孫の麻生太郎でございます。と挨拶したという伝説まであるくらい。誇張はあるにしても、庶民感

覚が分からないことは数々の失言が証明している。早い出世の世襲議員に実力が伴えばいいが、「七光り」だけの大臣が登場すると国民は不幸だ。前章までに触れた小此木、江崎両大

臣がまさにそうであり、麻生氏も首相時代を含めて何の実績も残していない。石原伸晃氏は幹事長時代、福島第一原発を「第一サテライト」、環境大臣時代に原発汚染土の中間処理施設に

「二世、三世は政治資金で苦勞しない。だからカネには比較的クリーンで、口では勇ましいことをいう世間知らずのタカ派のボンボン議員が増え、政治家の質がどんどん劣化している。安倍政権で危機管理を担っているのは叩き上げの菅官房長官。修羅場をくぐっていない名門政治家や家業政治家は本当の危機になると通用しない(青木氏)

PART6 有権者より自分と支持団体が最優先の「スキャンダル&金権政治議員」たち

甘利明、二階俊博、山尾志桜里、高木毅、梶山弘志、西川公也、佐田玄二郎

『安倍三代』(朝日新聞出版刊)の著者でジャーナリストの青木理氏が語る。

「現在、国会議員の4分の1が世襲で、自民党に限れば3分の1、そして大臣は6割以上と政権の中核にいくほど割合が大きくなる。

次の総選挙には、「政治とカネ」疑惑や下半身スキャンダルで役職を辞任し、

あるいは離党した政治家の多くが性懲りもなく総選挙に出馬しようとしている。

